

日常生活動作学

[講義・演習] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子 山根裕司 只石朋仁

【概要】

日常生活動作学 で学んだ知識を踏まえ、実際のADL能力向上に向けた具体的支援手法について実践する能力を高めていく。具体的には、ベッド上での寝返りや起き上がり、ベッドから車いすへの移乗といった動作獲得のための指導方法および家族や関係者への介助方法の指導、住宅改修や福祉用具の選定などの生活環境調整、ADL評価の実際について習得する。

【学修目標】

一般目標：

ADL指導のための知識を理解するため、疾患による指導の特性や注意点などを学び、説明ができる。

行動目標：

1. 実際のADL評価に向けた具体的手法を理解し、実践できる。
2. 動作獲得のための指導方法を理解し、実践できる。
3. 生活環境調整のための基本的知識を理解し、説明することができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------------|---------------|-----------------------------------|-------|
| 1 | オリエンテーション | 日常生活活動の支援意義と具体的な方策、ADL の復習 | 鈴木英樹 |
| 2 | 車いす操作 | 自走と簡単なメンテナンス | 担当者全員 |
| 3 | 車いす操作 | 介助方法と諸調整 | 担当者全員 |
| 4 | 歩行補助杖 | 杖の調整と歩行動作の指導 | 担当者全員 |
| 5 | 起居動作 | 起居動作（介助）の理解と実践 | 担当者全員 |
| 6 | 移乗動作 | 移乗動作（介助）の理解と実践 | 担当者全員 |
| 7 ┆ 9 | 福祉用具体験 | 介護用リフト クッションを用いたポジショニング 自助具 | 担当者全員 |
| 10 | 模擬事例を用いたADL評価 | 模擬事例を用いてADL評価を試行する | 鈴木英樹 |
| 11 | 模擬事例を用いたADL評価 | 模擬事例を用いてADL評価を試行する | 鈴木英樹 |
| 12 ┆ 14 | 起居動作や車いす介助の実践 | 起居動作や車いす介助について理解する | 担当者全員 |
| 15 | まとめ | ADL 及び を通して実施した内容について整理する | 担当者全員 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート5%

定期試験（筆記試験）70%

講義中の課題25%

定期試験及び追再試験実施後、問合せがあった場合には模範解答を提示する。

【教科書】

中山恭秀 編 「Crosslink 理学療法学テキスト 理学療法評価学」 メディカルビュー社 2022年

【参考書】

伊藤利之 他 編 「新版 日常生活活動（ADL）～評価と支援の実際～」 医歯薬出版 2010年

柴 喜崇 他 編 「PT・OTビジュアルテキストADL第2版」 羊土社 2021年

【学修の準備】

実技の際には動きやすい服装で臨むこと。

実技の際には全体をグループに分け実施する。

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んで理解しておくこと(80分)。

復習は、教科書や配布プリントなどを活用し、学修を深めておくこと(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2. 理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹(理学療法士、認定理学療法士;補装具、専門理学療法士;地域理学療法、支援工理学療法、介護支援専門員)

長谷川純子(理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級)

山根裕司(理学療法士、アスレティックトレーナー)

只石朋仁(理学療法士、専門理学療法士;生活環境支援)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び訪問リハビリテーション業務での実践経験を踏まえ、障がいをもつ方々の生活上の課題や、その課題解決のためのADL面からの働きかけについて演習を交えながら理解を深める。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している